

2021年4月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、横這い圏内の動きとなっている」と、前回の「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、持ち直しの動きが足踏みしている」から、表現を変更しました。表現の変更は、持ち直しの動きが足踏みし、それが相応の期間、続いていることを踏まえたもので、基調判断としては、前回から横這いです。
- 需要項目ごとの判断も、個人消費について、基調判断と同様の理由で、「低い水準となっており、横這い圏内の動きとなっている」と表現を変更しました。それ以外の項目には、変更はありません。
- 雇用や金融面についても、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、3月、前年を幾分下回りました。道の集中対策期間が終了し、外出自粛の動きが幾分和らいだ局面がありましたが、来店客数はなお低めの水準に止まりました。衣料品は低調が続いている一方、巣ごもり需要を背景に日用品、食料品は、底堅い動きを維持しています。また、家電販売は、白物が堅調であるほか、テレビ、パソコン、エアコン等が好調であり、全体として堅調な動きとなっています。
- 3月の新車登録台数は、軽自動車の前年を上回りましたが、除く軽が前年を下回り、軽自動車を含めた合計では前年並みとなりました。新規受注は、スローダウンした後、横這い圏内の動きとなっています。自動車ディ

ーラーへの来店客も、感染症の影響が長引く中で、概ね横這いで推移しています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、3月は、旭川、紋別が前年を下回りましたが、女満別、稚内が前年を上回ったことから、全体でも前年を幾分上回りました。14か月振りの前年比プラスです。もっとも、これは、前年が感染症の影響で大幅減となったためであり、前々年との比較では、3分の1程度に止まっています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、3月は、13か月連続で定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、3月、前年を上回りました。これも前年が感染症の影響で大幅減となった反動であり、前々年の水準を大きく下回っています。新規予約が低調に推移する中で、一部に休業に踏み切る先もみられるなど、引き続き、弱い動きとなっています。旭川市内のホテル客室稼働率は、3月、前年を上回りました。前年を上回ったのは、18か月振りです。ただ、こちらも前年が感染症の影響で大きく落ち込んだためであり、前々年の水準を大きく下回っています。
- 各地観光施設の入込みは、3月、ウェイトの大きい旭山動物園、層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーとも前年を上回ったことから、合計でも前年を上回りました。これも上記と同様の動きであり、前々年の水準を大きく下回っています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、3月、オホーツクが前年を幾分下回ったものの、上川が前年を大きく上回り、宗谷も前年を上回ったことから、全体でも前年を大きく上回りました。

た。2020年度（2020/4～2021/3月の累計）でも、宗谷、オホーツクが前年度を大きく上回ったほか、上川も前年度を上回ったことから、全体でも前年度を上回りました。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、2月、持家、分譲が前年を上回ったものの、貸家が前年を大きく下回ったことから、全体でも前年を幾分下回りました。基調としては、持家が振れを伴いながらも徐々に持ち直しているほか、貸家は高めの水準となっています。分譲は概ね横這い圏内の動きとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、2月、稚内が前年を上回り、北見が前年並みとなりましたが、旭川、網走で前年を下回りました。旭川、網走が1倍を下回ったものの、稚内、北見が1倍超えとなったことから、全体では8か月連続の1倍超えとなりました。新規求人数は、2月、旭川、北見、稚内、網走の全てで前年を下回ったことから、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも、前年を下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、3月、前年を上回りました。3月まで25か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、引き続き、感染症の帰趨とその影響がポイントになると考えられます。先行きは、感染症再拡大の影

響が徐々に和らぐことで、緩やかな持ち直し基調に復していくとみられますが、極めて不確実性が高く、下振れリスクが大きい点には注意が必要です。具体的には、①感染症再拡大の影響により、さらなる下押し圧力が掛かることが懸念される観光、消費の動向、②雇用、所得、企業収益や設備投資計画への影響、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地建設業者の受注への影響、といった面に注意を払いたいと思います。

以 上